



2020年12月期 決算説明資料

第1四半期

2020年5月11日（月）
株式会社ワールドホールディングス
東証1部（2429）

I . 2020年12月期 第1四半期決算概要

- ・ 決算サマリー … P3
- ・ セグメント別業績概況（前期比） … P4
- ・ 各セグメント詳細 … P5
- ・ トピックス … P13
- ・ 財政状態 B/S … P14

II . 2020年12月期 業績見通し

- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響について … P16
- ・ 2020年12月期 通期業績見通し … P17
- ・ セグメント別 通期業績見通し … P18
- ・ 株主還元 … P19

I. 2020年12月期 第1四半期決算概要



決算サマリー

- 基幹の人材・教育ビジネス、不動産ビジネスともに順調に推移
- 新型コロナウイルス感染症の影響は現時点で大きな影響はなし
⇒ 新型コロナウイルス感染症の影響については16ページを参照

(単位: 百万円)

	2019/1Q 実績	2020/1Q 当初予算(※)	2020/1Q 実績	実績vs予算 超過額	前期比	
					増減額	増減率
売上高	30,614	35,578	36,480	+ 902	+5,866	+19.2%
営業利益	162	539	1,358	+ 818	+1,196	+734.5%
経常利益	159	—	1,393	—	+1,233	+773.1%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	11	—	1,640	—	+1,629	+14,725.1%

※2020年2月17日発表

セグメント別 業績概況（前期比）

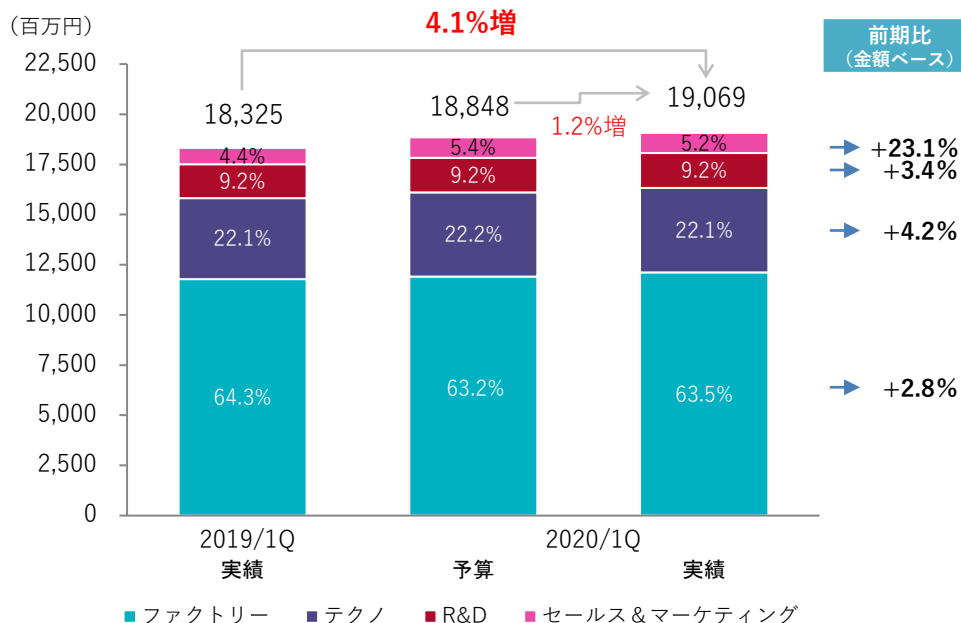
単位：百万円			2019/1Q 実績 (利益率)		2020/1Q				
					実績 (利益率)		前年同期比		
							増減額	増減率(%)	
人 材 ・ 教 育 ビ ジ ネ ス	計	売 上 高 セグメント利益	18,325 949	(5.2%)	19,069 1,108	(5.8%)	744 159	4.1 16.8	
	ファクトリー事業	売 上 高 セグメント利益	11,785 506	(4.3%)	12,114 466	(3.9%)	329 △39	2.8 △ 7.9	
	テクノロジー事業	売 上 高 セグメント利益	4,037 354	(8.8%)	4,207 462	(11.0%)	170 108	4.2 30.6	
	R & D 事業	売 上 高 セグメント利益	1,692 106	(6.3%)	1,750 170	(9.8%)	57 64	3.4 60.8	
	セールス&マーケティング事業	売 上 高 セグメント利益	810 △17	—	997 8	(0.9%)	186 26	23.1 —	
	不動産ビジネス	計(参考)	売 上 高 セグメント利益	8,291 △23	—	14,238 861	(6.1%)	5,947 885	71.7 —
	情報通信ビジネス	情報通信事業	売 上 高 セグメント利益	3,369 △88	—	2,492 91	(3.7%)	△876 180	△ 26.0 —
そ の 他	そ の 他 事業	売 上 高 セグメント利益	628 △126	—	679 △141	—	51 △14	8.2 —	
合 計		売 上 高 消去又は全社 営業利益	30,614 △546 162	(0.5%)	36,480 △560 1,358	(3.7%)	5,867 △14 1,196	19.2 — 735.1	

セグメント全体

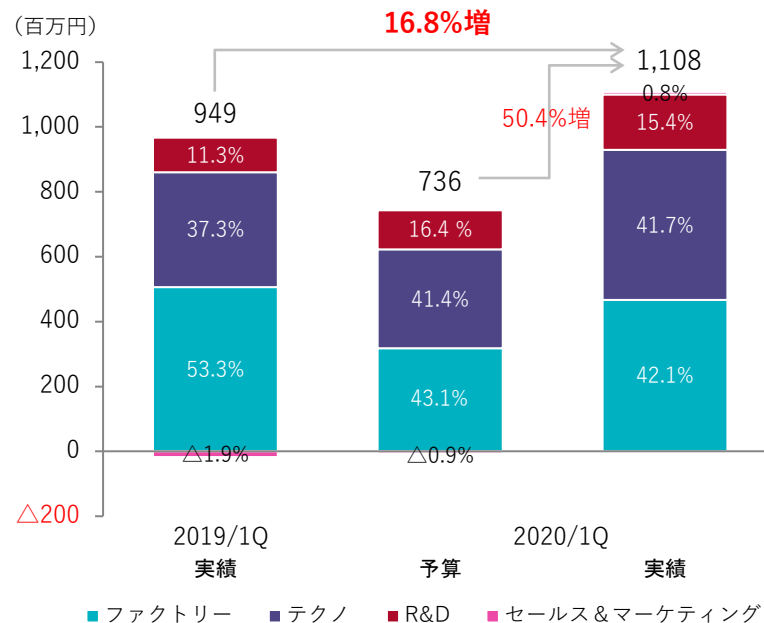
<売上高およびセグメント利益の事業別構成比>

- 人材育成に注力し、ブランド力（集まる力）を高める中長期的目線での施策推進を継続
- 法改正等、変化する外部環境への対応
- 新型コロナウイルス感染症の影響は現時点では限定的

◆ 売上高 構成比



◆ セグメント利益 構成比

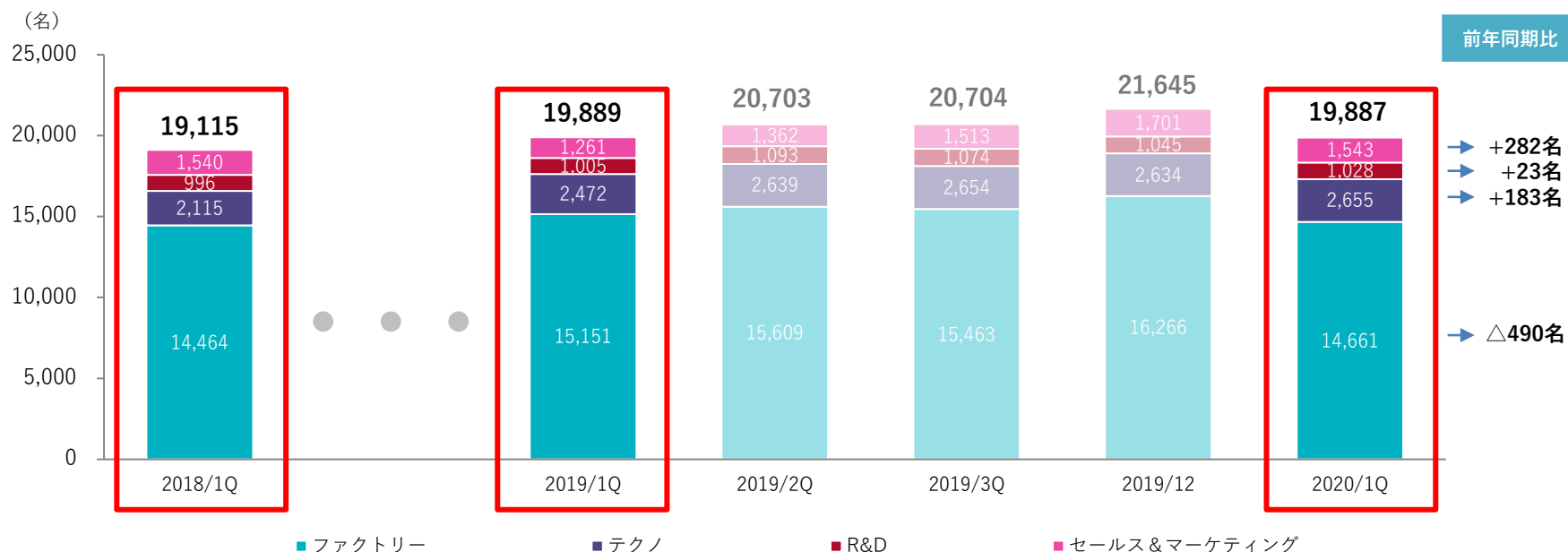


セグメント全体

< 在籍数の推移 >

- ファクトリー事業は、物流分野における効率化に加え、海外事業において新型コロナウイルス感染症に起因する稼働低下によって減少
- テクノ事業は、注力してきた人材育成が奏功し、研修生の配属が計画通り推移し増加
- セールス＆マーケティング事業は、構造改革後、成長軌道に戻したことにより増加

◆ 在籍数※（3ヶ月平均）の推移



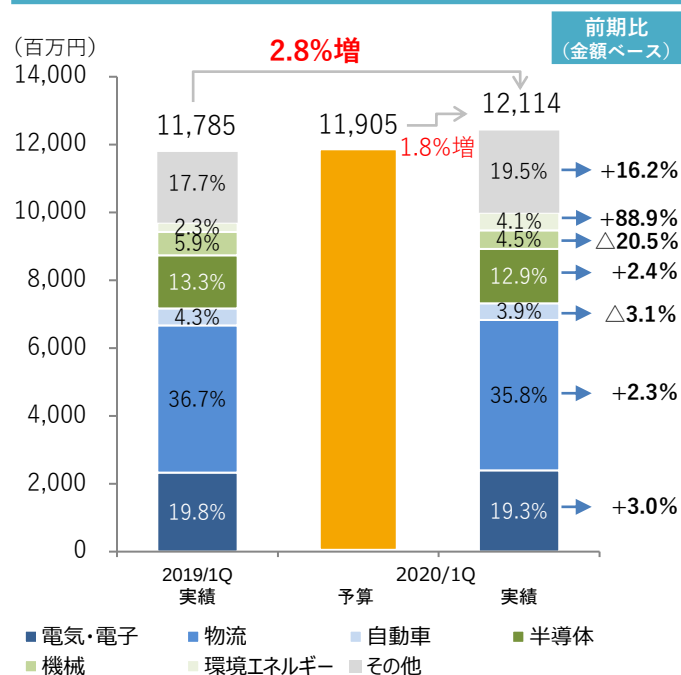
※ ファクトリーの在籍者数については他社受入の外部人員を含む

ファクトリー事業

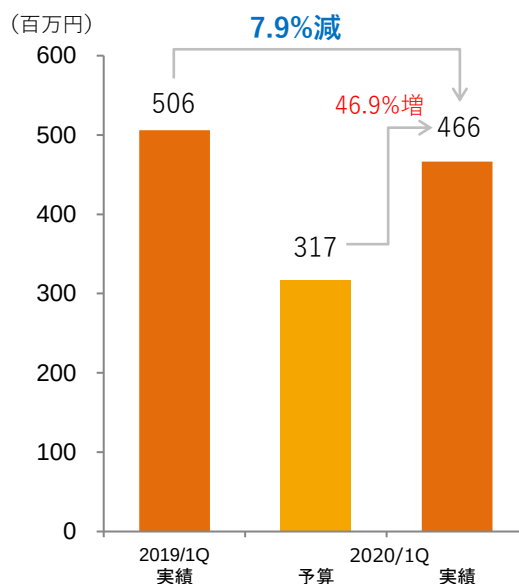
< 分野別売上高・構成比と在籍数 >

- 一部の顧客で新型コロナウイルス感染症による部材調達難や短期間の稼働停止等の発生があったものの、戦略的に取引拡大を進めてきた5G関連及び半導体関連が好調
- コンソーシアムモデルでの人員確保を進める等、採用体制を強化
- 物流分野は新拠点開拓のための人材育成を推進

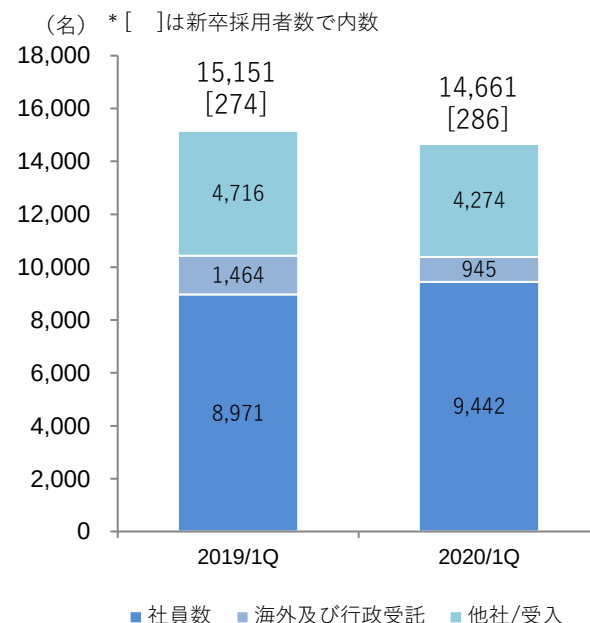
◆ 分野別売上高と売上高構成比



◆ セグメント利益



◆ 在籍数の推移 (3ヶ月平均)



※売上高の予算は分野別に開示しておりません

※在籍は3か月平均 他社受入の外部人員を含む
※在籍数は現業社員のみ

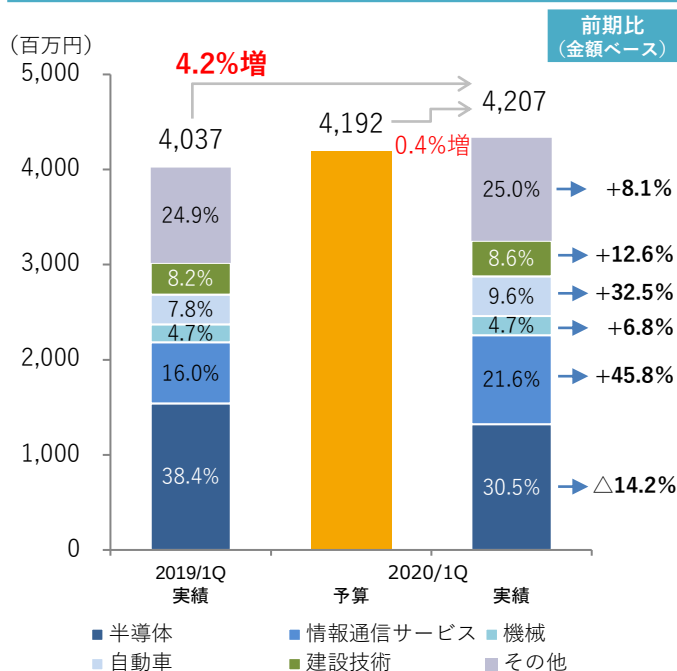
テクノ事業

< 分野別売上高・構成比と在籍数 >

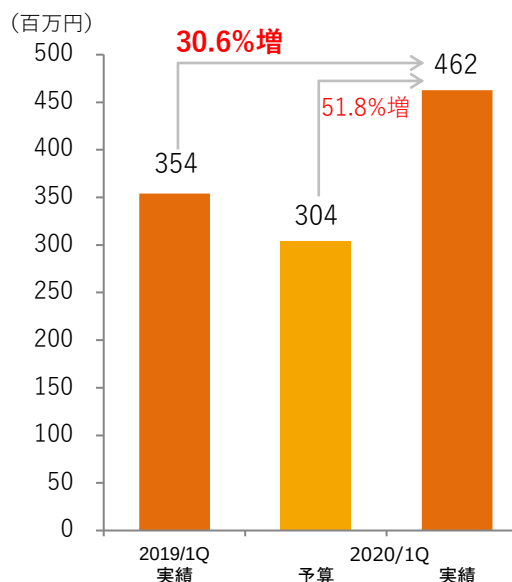
- 自動車、情報通信サービス、建設技術関連等において売上高、利益ともに順調
- スキルの高い経験者採用を強化し、スキルアップと時流に合わせたシフトアップのための育成プログラムの増強等により高領域での配属を企図

※ 人材育成はこれまでの、「デザインセンター」での3D-CAD研修、「プロダクションエンジニアリングセンター」での生産技術研修、(株)アドバンと連携したプログラミング研修、ネットワークインフラ研修等の内容を進化させ、キャリアアップのための教育や保有技術のさらなる深化に注力

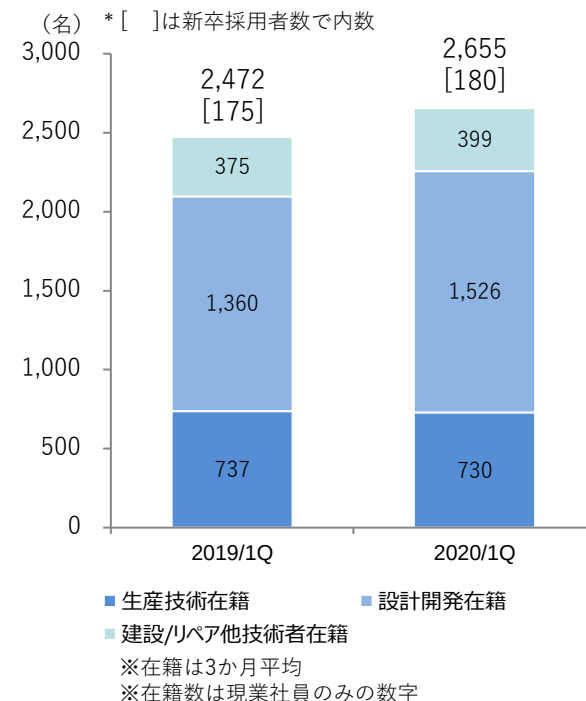
◆ 分野別売上高と売上高構成比



◆ セグメント利益



◆ 在籍数の推移 (3ヶ月平均)



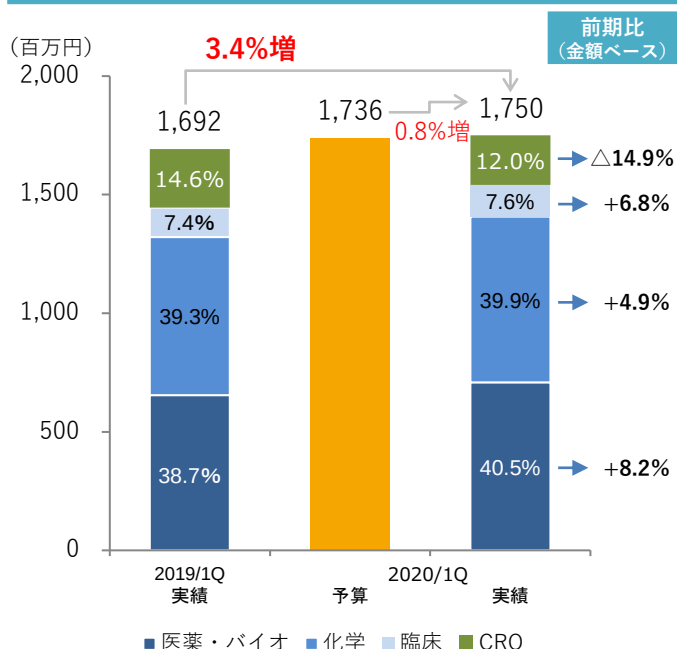
※売上高の予算は分野別に開示しておりません

R & D事業

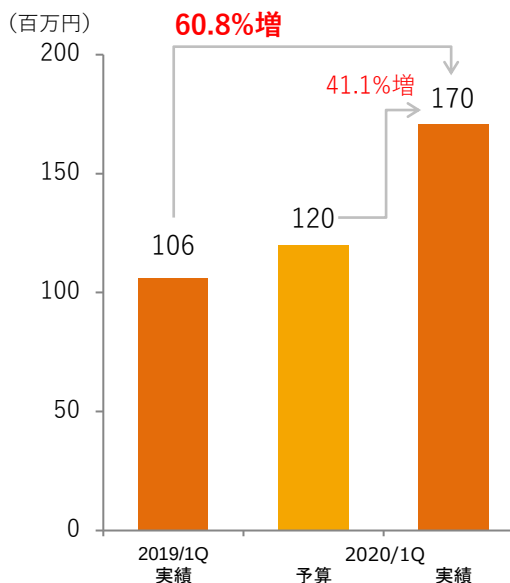
< 分野別売上高・構成比と在籍数 >

- 研究者派遣部門・CRO部門ともに概ね計画通りに推移
- 限定的ながら新型コロナウイルス感染症に係る治験等のオーダー増に対応
- 東京大学・京都大学・大阪大学等の提携大学との共同研究ラボを通じた人材育成体制が整っていることから採用母集団も拡大

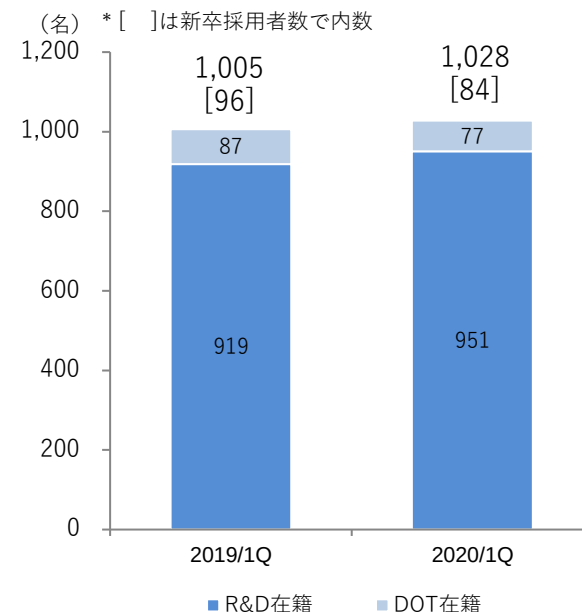
◆ 分野別売上高と売上高構成比



◆ セグメント利益



◆ 在籍数の推移 (3ヶ月平均)



※売上高の予算は分野別に開示しておりません

※在籍は3か月平均
※在籍数は現業社員のための数字

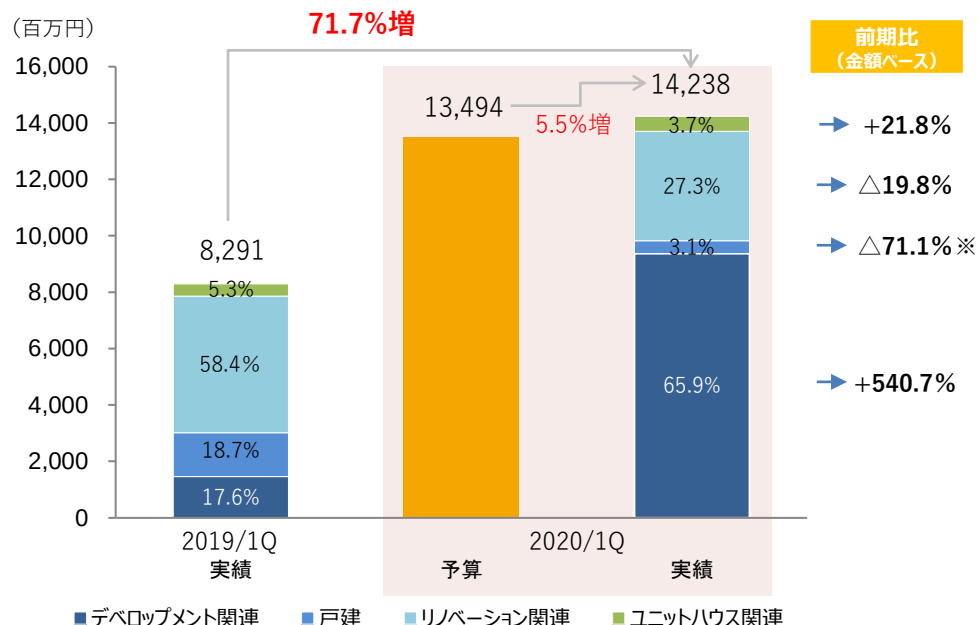
不動産事業

※ 不動産事業に関しては、事業の特性上、年間予算対比の動向を重視した経営を行っている

< 業態別売上高・構成比 >

- 時流を見据えた営業活動により事業用地の引渡しが増加し計画以上に推移
- 外部環境を十分に考慮し、仕入れに関しては慎重な姿勢を維持しつつ、外部環境の反転に備えアセットマネジメント等金融関連のビジネス基盤の構築等を準備

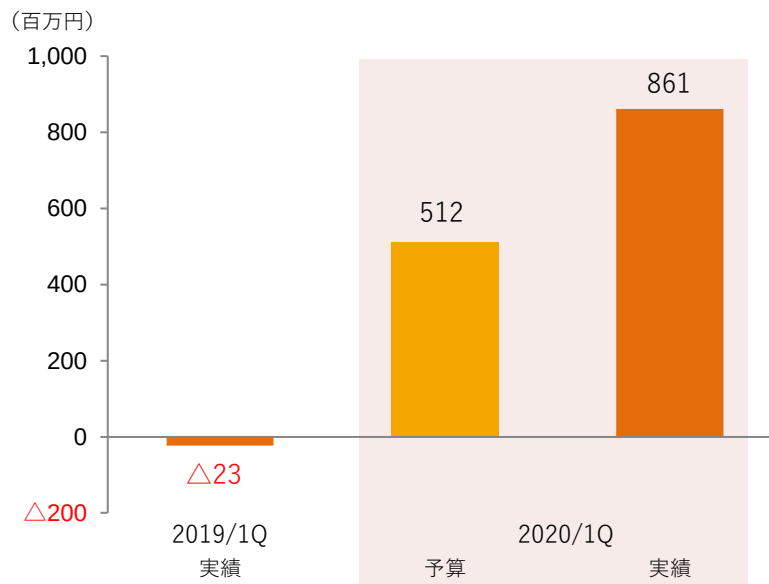
◆ 業態別売上高と売上高構成比



売上高、およびセグメント利益の予算は業態ごとに開示しておりません

※戸建を主としていた豊栄建設㈱の売却に伴い、当第1四半期より報告セグメントから除外しております

◆ セグメント利益

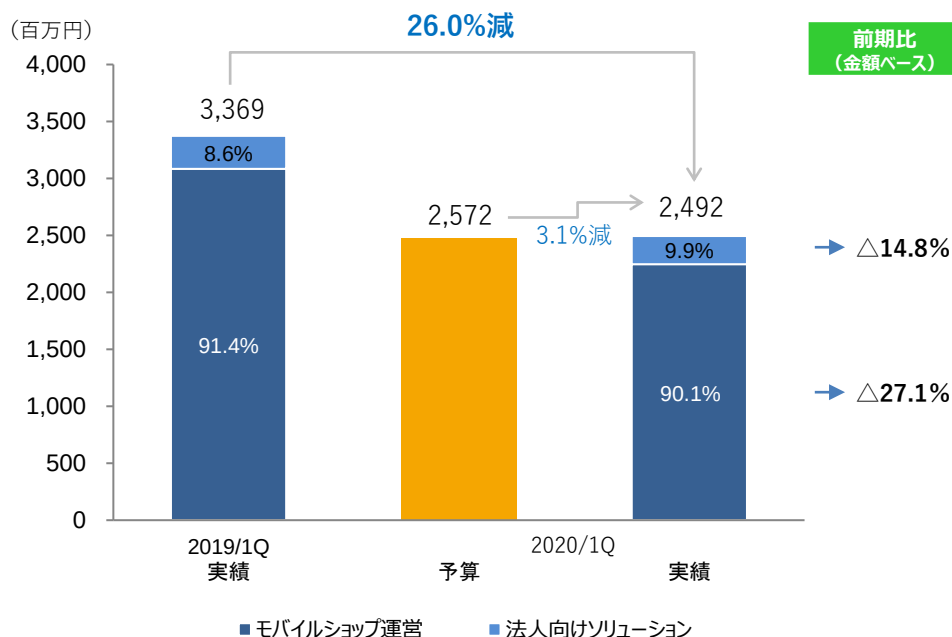


情報通信事業

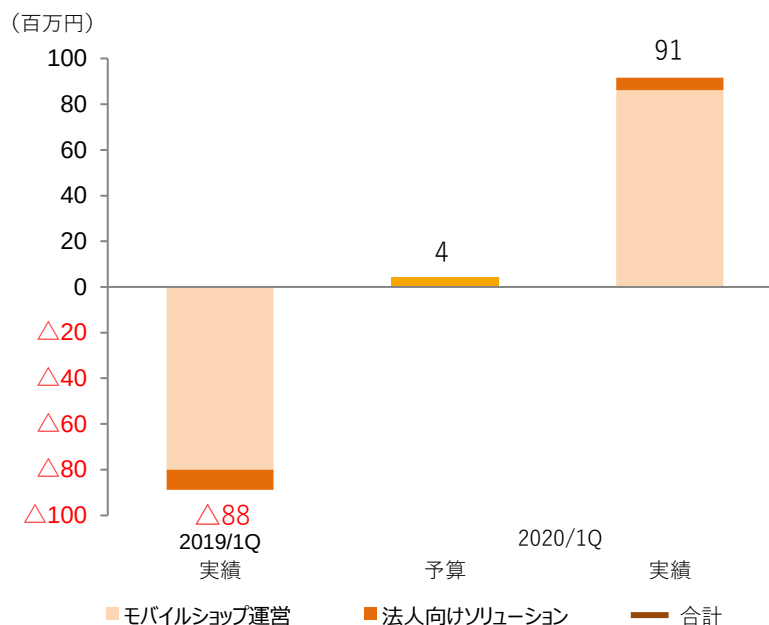
<仕向け別売上高とセグメント利益>

- 前期まで実施してきたショップ事業の強化に重点をおいた施策・投資（組織・店舗整備、接客力・知識力向上に向けた人材育成等）により、一店舗当たりの収益が改善
- 直近においても店舗の稼働制限等はあるものの、現状の影響は限定的（注：本セグメントの第1四半期は10～12月のため、新型コロナウイルス感染症の影響はありません）

◆ 仕向け別売上高



◆ セグメント利益

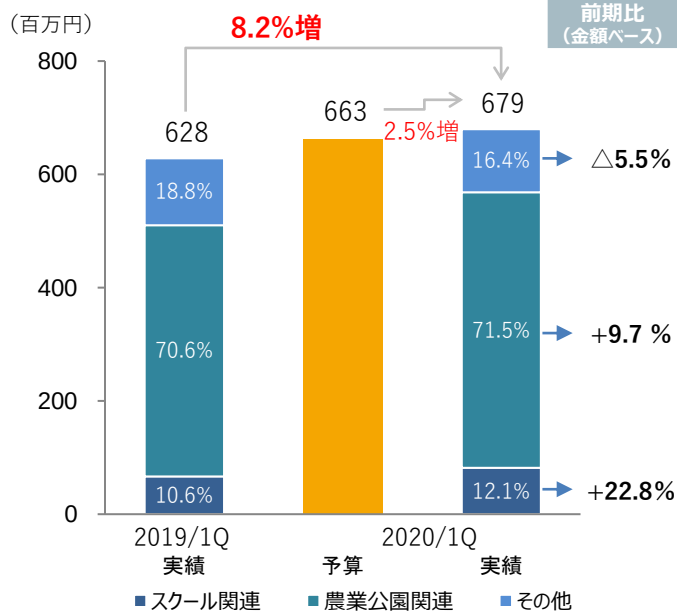


その他事業

<売上高と主な取り組み>

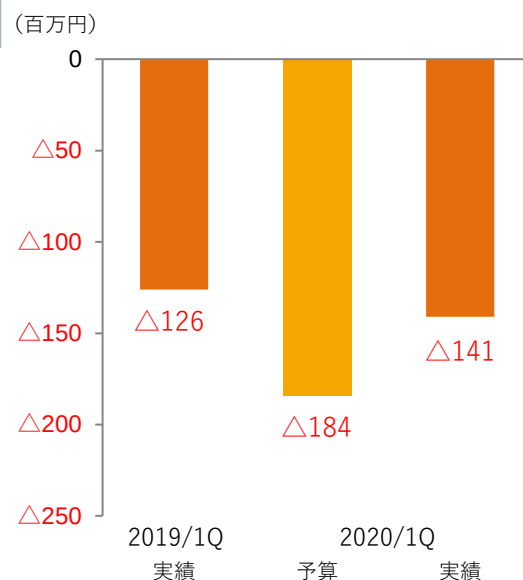
- 農業公園関連は、前期までの設備投資効果に加え、1～2月までは比較的暖冬であったことから集客増で推移。ただし、3月は新型コロナウイルス感染症の影響で外出自粛等により厳しい状況。4月以降も厳しい状況は予想されるが、通常のテーマパークと違い自然を主とした屋外施設であるため回復が早いことを想定

◆売上高の内訳

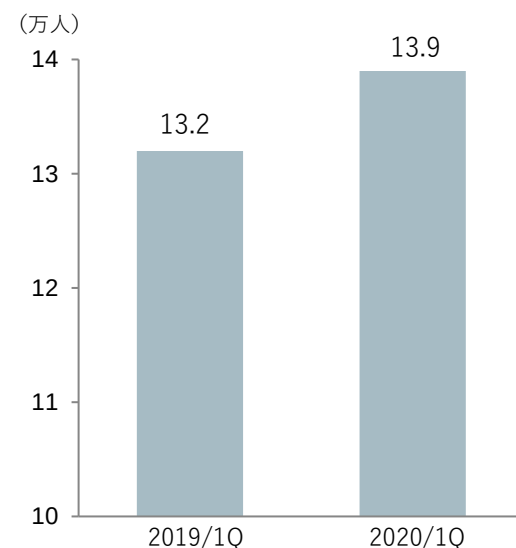


※売上高、およびセグメント利益の予算の内訳は開示しておりません

◆セグメント利益



◆入園者数

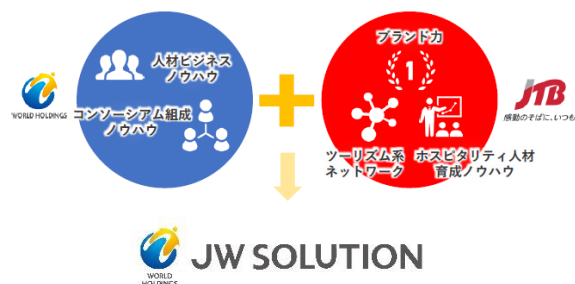


大手企業とのコラボレーションによる新領域への取り組み

【ツーリズム業界】

(株)JWソリューションを大幅増強

(株)JTBと共同出資を行い
ツーリズム業界へ一気に業容拡大・全国展開等の準備



現状、新型コロナウイルスの影響を大きく受けている業界ではあるが、幸い大きな投資前であり
収束後のV字回復を好機と捉え準備を推進



「ワールドホールディングス&JTBグループによる協業事業に関する記者会見」の様子
(1月28日、於 帝国ホテル)

左から (株)ワールドホールディングス 代表取締役会長兼社長 伊井田栄吉
(株)JWソリューション 代表取締役社長 本多信二
(株)JTB 代表取締役 社長執行役員 高橋広行氏
(株)JTBコミュニケーションデザイン 代表取締役 社長執行役員 細野顕宏氏

【素材業界】

(株)TOHOWORLDを設立

東邦チタニウム(株)と共同出資を行い
素材業界に特化した人材ビジネス企業を設立



素材業界における技術・技能の伝承を事業化

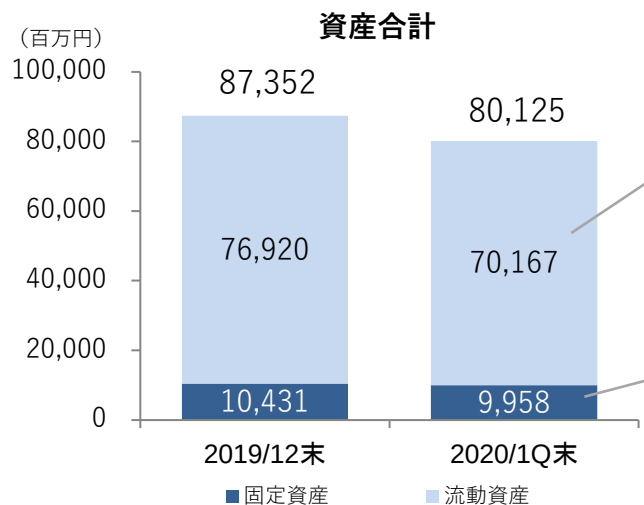


「(株)TOHOWORLD設立に関する記者会見」の様子
(2月20日、於北九州市役所 市政クラブ)

左から (株)TOHOWORLD <新会社> 代表取締役社長 永井宏樹
東邦チタニウム(株) 取締役 常務執行役員 松原浩氏
(株)ワールドホールディングス 代表取締役会長兼社長 伊井田栄吉
(株)ワールドインテック 取締役 専務執行役員 栗山勝宏
北九州市 市長 北橋健治氏

今後もJV、コンソーシアムモデル等を駆使し新たな人材ビジネス市場の創出を目指す

財政状態 B/S

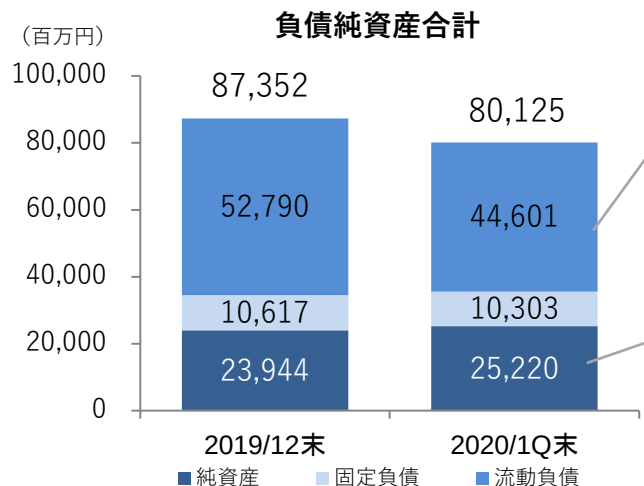


流動資産 70,167 (△6,753)

- ・ 受取手形及び売掛金 △1,076百万円
- ・ 販売用不動産 △3,827百万円
- ・ 仕掛販売用不動産 △2,742百万円

固定資産 9,958 (△473)

- ・ 有形固定資産 △665百万円



負債 54,905 (△8,502)

- ・ 不動産事業未払金 △737百万円
- ・ 未払費用 △879百万円
- ・ 前受金 △6,211百万円

純資産 25,220 (+1,276)

- ・ 資本金 +197百万円
- ・ 資本剰余金 +197百万円
- ・ 利益剰余金 +787百万円

Ⅱ． 2020年12月期 業績見通し



新型コロナウイルス感染症の影響について

- ✓ 当第1四半期の影響は限定的（当社グループ内での感染者は発生しておりません）
- ✓ 直近では緊急事態宣言に伴う稼働制限等によるマイナス影響がある一方、一部業種においては特需的な受注増加もあり、先行きの見通しは不透明
- ✓ 収束後の環境変化をシェア拡大の好機とすべく準備を推進

人材・教育ビジネス

- 稼働制限等はあるがクライアントからの休業補償等により現時点では概ねカバー（⇒ただし長期化した場合の先行きは不透明）
- 県外からの配属が制限される等、一部で人材流動化に影響あり
- ソーシャルディスタンスによる稼働効率悪化が発生
- 主にテクノ事業でオーダー減、残業減、新卒配属の遅れ等が発生
- 自動車業界の生産減はあるものの、当社においては影響が軽微でありシェア拡大の好機
- 製薬・治験、及び半導体関連の一部で特需あり

収束後の人材業界の在り方・環境変化を大きなシェア拡大好機と捉え準備を推進

不動産ビジネス

- 影響は限定的
- 先行きの不透明感から一部で購入予算の圧縮や後ろ倒し等の反応が見られるが、進行中の物件に関しては問題は生じていない
- 長期化に伴い、法人個人共に資産処分が進む可能性があることから仕入環境改善が予想される

厳しい不動産市況の中、適正規模経営を進めてきた当社においては絶好のシェア拡大好機

2020年12月期 通期業績見通し

2月10日公表の業績予想は、新型コロナウイルス感染症による影響を織り込んでおりませんが当第1四半期における影響が限定的であったことに加え、先行きに関しても不透明なため現時点におきましては業績予想を変更していません。
なお、業績予想を見直す必要が生じた場合には速やかに公表いたします。

単位：百万円、%	2019/12 実績	2020/12 見通し	前期比	
			増減額	増減率
売上高	136,319	159,682	23,363	17.1
営業利益	4,730	7,851	3,120	66.0
経常利益	4,805	8,338	3,533	73.5
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,956	5,601	2,644	89.5
一株当たり利益（円）	175.59	332.60	157.01	89.4
一株当たり配当金（円）	52.7	99.8	47.1	89.4

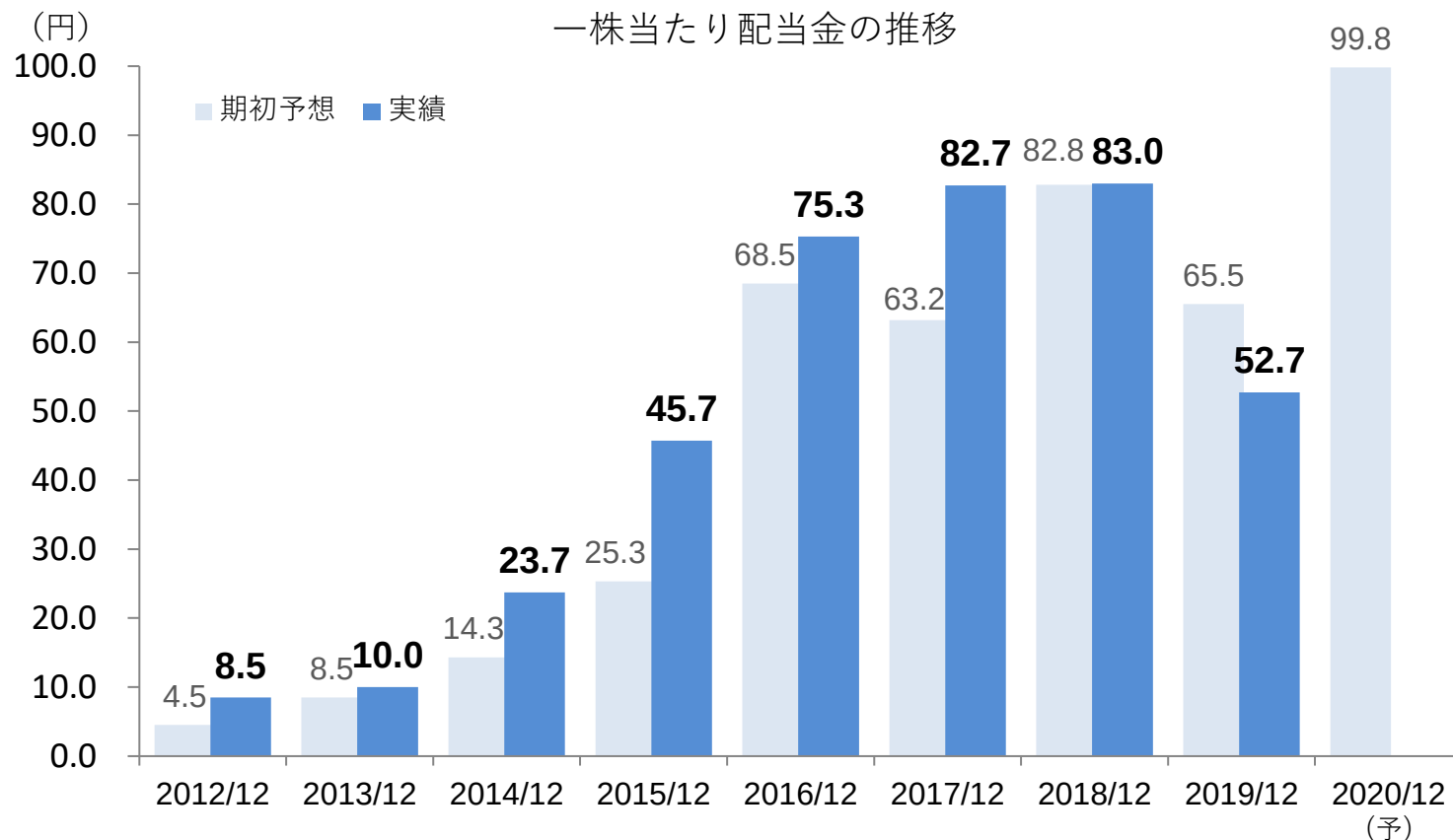
セグメント別 通期業績見通し

基幹の人材・教育ビジネスを中心に確実な成長を持続
(期初予想を変更していません)

単位：百万円、%			2019/12 実績	(利益率)	2020/12 見通し	(利益率)	前期比	
							増減額	増減率
人材・教育ビジネス	計	売上高	77,774		88,339		10,565	13.6
		セグメント利益	5,179	(6.7%)	6,006	(6.8%)	826	16.0
	ファクトリー事業	売上高	50,001		57,389		7,387	14.8
		セグメント利益	2,679	(5.4%)	3,399	(5.9%)	720	26.9
	テクノ事業	売上高	16,902		18,327		1,424	8.4
		セグメント利益	1,761	(10.4%)	1,913	(10.4%)	152	8.6
	R & D 事業	売上高	7,108		7,446		338	4.8
		セグメント利益	711	(10.0%)	753	(10.1%)	41	5.8
	セールス&マーケティング事業	売上高	3,761		5,176		1,415	37.6
		セグメント利益	27	(0.7%)	△59	(—)	△86	(—)
不動産ビジネス	不動産事業	売上高	42,082		56,369		14,286	33.9
		セグメント利益	1,460	(3.5%)	4,126	(7.3%)	2,666	182.6
情報通信ビジネス	情報通信事業	売上高	12,344		10,644		△1,700	△13.8
		セグメント利益	10	(0.1%)	220	(2.1%)	209	1,910.6
その他	その他の事業	売上高	4,118		4,330		211	5.1
		セグメント利益	132	(3.2%)	153	(3.5%)	21	16.3
合 計		売上高	136,319		159,682		23,363	17.1
		消去又は全社	△2,052		△2,654		(—)	(—)
		営業利益	4,730	(3.5%)	7,851	(4.9%)	3,120	66.0

株主還元

配当性向30%を目安とし、安定的かつ継続的な配当成長を目指す
(期初予想を変更していません)



※業績予想及び配当予想につきましては、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

本資料に関するお問い合わせ

株式会社ワールドホールディングス

広報IR室 西原 範朗

TEL 03-3433-6005

E-MAIL irinfo@world-hd.co.jp

URL <http://www.world-hd.co.jp/>

本資料のいかなる情報も、弊社株式の購入や売却などを勧誘するものではありません。
また、本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点での弊社の判断であり、
その正確性を保証するものではなく、今後、予告なしに変更される事があります。
万が一この情報に基づいて被ったいかなる損害についても、弊社及び情報提供者は一切
責任を負いませんのでご承知おきください。